

# 赤面山の荒廃したゲレンデ跡地の植林活動

福島森林管理署白河支署 森林技術指導官 益子 紀之  
赤面山を緑にする会 事務局 金澤 隆夫

## 1. 背景とその目的について

旧白河高原スキー場(西郷村)は、平成12年から休止しその後倒産廃業し、原状回復もされない状態となっていた。場所によっては自然に植生が回復する箇所もあったが、標高の高い箇所にあるゲレンデについては、表土が流出し植生の回復が進まず、地盤が露出した状態となっていた。そこで、地元の方々が甲子高原一帯の美しい風景を守るためにも、このままにはできないと「赤面山を緑にする会」を設立し、植林活動による植生の回復に取り組んでいる。その活動も10年を越え、多くのボランティアの協力を得ながら実施するまでになった。この活動により、一部で確実な植生回復が図られ、また、保護の重要性を一般の人に広めることができたことから、今回はこの活動について報告する。

## 2. 赤面山を緑にする会について

赤面山を緑にする会は、平成26年1月23日に「赤面山植生復元実行委員会」が発足され、同年4月25日に「赤面山を緑にする会」と改名されて、現在に至っている。会員は令和7年1月現在で、16の構成団体、5つの協力団体から構成され、西郷村に在籍している。平成27年4月1日には、ふれあいの森「赤面太郎の森」として白河支署と協定を締結しており、以降この協定箇所での植林活動を続けている。

※赤面太郎:伝説の大熊の呼称

※会のHPアドレス: <https://akazura-midori.jimdofree.com>

## 3. 主な活動と成果について

### 活動

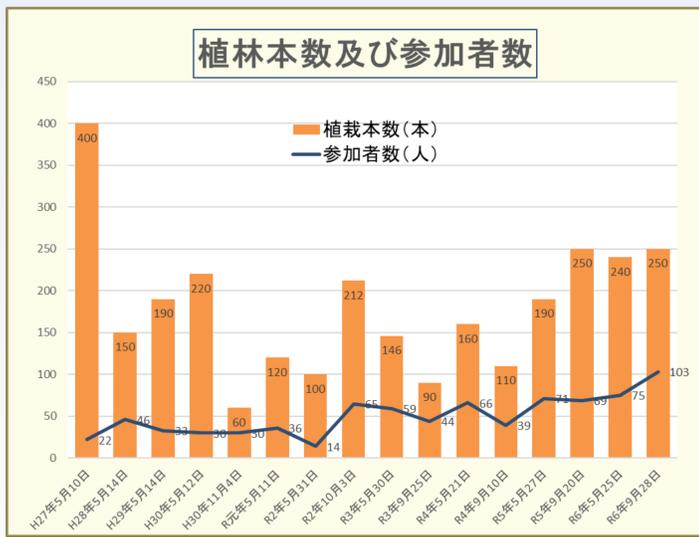
- 平成27年より、毎年5月と9月に会の構成メンバー及びボランティアにより植林活動を実施。
- 植林する樹種は、ヤシャブシ、ヤマハンノキなどを主に、全て現地から種子を採取し、構成団体の協力も得ながら苗木を育て、植林している。
- 参加可能な年は、「足尾に緑を育てる会」の植林活動にも参加。
- 9月の植林活動は、福島県とのタイアップにより「ふくしまの水に触れよう2024」として実施している。

### 成果

- 植林本数もこの10年間で3,166本となった。
- 参加人数も年々増え、令和6年度は178名の参加者を得た。
- 令和6年6月には福島県より「うつくしま・ふくしま環境顕彰」を受賞。



旧白河高原スキー場跡地



2024年11月7日  
ヤマハンノキ種子採取の様子



2024年11月7日  
ヤマハンノキ苗木生育の様子



2024年5月25日  
第3ゲレンデ植林活動の様子



2020年5月31日  
第3ゲレンデに植林したヤシャブシ  
2024年5月25日現在 職員の身長170cm

## 4. 今後の課題と対策について

### 課題

- 平成27年より、植林活動を続けてきたが、活着が悪いところがある。
- ごく一部ではあるが、ウサギによる植林木の食害も見受けられるようになった。
- 効率的な苗木の生産方法の検討。
- 事務局の後継者を見つける。

### 対策

- 外来種を入れるわけにはいかないので、待受け式の繊維ネットの設置を検討。
- 苗木業者や専門家のアドバイスを聞き、取り入れる。
- 植林活動の参加者に興味を持ってもらい、事務局に勧誘する。

## 5. 最後に

この活動も皆様のご協力により10年目を迎えることが出来ました。部分的にうまく育たないところもあり、苦勞しているところもありますが、楽しくやらせて貰っております。今後も、何年かかるか、続けられるか分かりませんが、出来るうちは引き続きこの活動に取り組んでいきたいと考えておりますので、温かく見守って頂けたらと思います。いつしか、緑豊かな赤面山が返ってくるその日まで。(事務局より)



2024年5月25日 大高紀元会長からの挨拶



同日 第3ゲレンデへ歩いて約1時間



同日 天気が良ければ眺めは最高



同日 最後に記念撮影